

TOPICS

糖尿病
内科

糖尿病内科の紹介

糖尿病内科 医長 松本しのぶ

平素より患者さんのご紹介ありがとうございます。

本年より、糖尿病内科は常勤医師3名（中村直登：支部長、松本しのぶ：医長、片山智也：医員）で運営しています。これまで2名体制だった当科ですが、増員となり益々糖尿病診療の充実を図りたいと思っています。

今回は現在の当科の取り組みと、今後の展望について、そして最近のトピックスである「糖尿病とスティグマ」についてご紹介いたします。



1 | 現在の当科の取り組み

▶ 外来

平日は毎日外来を行っています。管理栄養士による栄養指導も毎日行っており、可能な限り当日依頼の栄養指導も受け入れています。インスリン使用中で頻回の血糖測定が必要な患者さんには Free Style リブレ（持続グルコースモニタリングが可能な測定器）の導入も積極的に行い、患者さんの負担軽減とともに細やかなインスリン調整に努めています。

また、毎週火曜日には糖尿病合併症外来（完全予約制）を行っています。糖尿病では合併症の定期的なチェックが必要ですが、忙しい日常診療の中で忘れずに検査を行っていくことは容易ではありません。当科にご紹介いただければ1日で必要な合併症検査を行わせていただきます。是非ご利用下さい（詳細は当院HPをご参照下さい）。



■ 糖尿病合併症外来のページ
(<https://kyoto.saiseikai.or.jp/guide/tokusyu01.html>)

▶ 入院

約2週間の糖尿病教育入院では、糖尿病のしおりとDVDを用いて糖尿病について学んでいただき、平行して糖尿病合併症検査を行っています。

また、日常診療では患者さんの心理社会的背景についてうかがう時間を確保しづらいものですが、入院中には患者さんの血糖コントロールを難しくさせている原因について十分な聞き取りを行い、患者さんの生活に沿った、実行可能な治療の選択を行っています。

▶ そのほか

年4回の糖尿病教室や、年1～2回の院内講演会を開催しています。残念ながら今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため開催を中止しましたが、状況を見て再開予定です。

2 | 今後の展望

患者さん同士の交流の場を作るために、糖尿病患者会を立ち上げ準備を進めています。また、開業医の先生方の糖尿病診療の一助となるよう、予約制の外来栄養指導も開始

したいと考えています。短い外来時間の中では困難な栄養指導を、当院の管理栄養士が行わせていただきます（単回でも継続でも可）。準備が整い次第ご案内致します。



当院の管理栄養士



社会福祉法人

恩賜
財団

済生会京都府病院

〒617-0814 長岡京市今里南平尾8番地

地域医療支援室

TEL 075-956-3825
FAX 075-956-3826

受付時間（原則）：平日 8:45～19:30（木曜日は17:00まで）

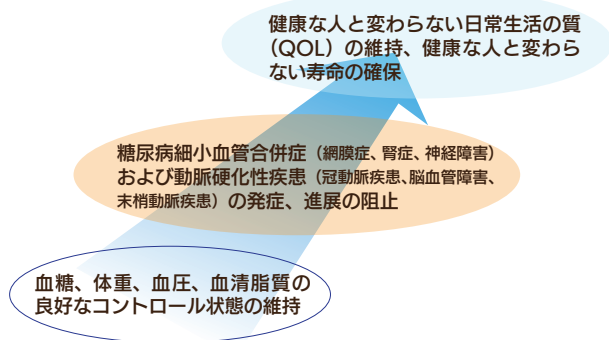
糖尿病とスティグマ



日本糖尿病学会が毎年出版している『糖尿病治療ガイド』の中に記載されていた「糖尿病治療の目標」が、2020年版で大きく変わったことをご存じでしょうか。

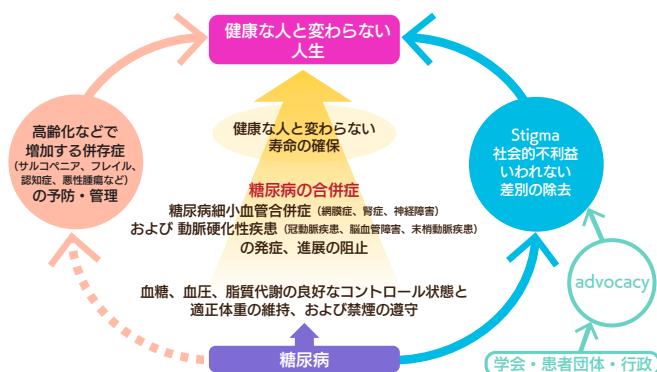
糖尿病治療の目標 2019年版

日本糖尿病学会 編・著：糖尿病治療ガイド 2018-2019 P28, 文光堂, 2018



糖尿病治療の目標 2020年版

日本糖尿病学会 編・著：糖尿病治療ガイド 2020-2021 P31, 文光堂, 2020



新しい治療目標には、患者の権利擁護活動（アドボカシー：advocacy）の大切さ、社会的スティグマ（stigma）を取り除くことの重要性が盛り込まれています。ここでは、糖尿病患者を「病人」としてではなく「糖尿病という病をもつ人：Person with diabetes」として扱う配慮があり、これまで糖尿病患者さんが受けてきた社会的不利益を無くし、真の意味での“普通の人と変わらない人生”を目指していることが感じられます。

スティグマとは「ある特定の属性に所属する人に対して否定的なレッテルを貼ること」です。糖尿病に関するスティグマの例としては、“糖尿病を発症したことや治療が成功しないのは本人の自己責任能力が欠如しているからだ”という考え、また、“糖尿病があると寿命が短くなる、合併症を引き起こす”といったマイナスイメージが挙げられます。このような糖尿病のスティグマにより、糖尿病患者さんは就職、結婚、生命保険や住宅ローン審査など、社会生活を送るうえで明らかに不利益を被っています。この社会からの差別（スティグマ）を受けることなく生きていくことができるように支援する活動をアドボカシー活動と言います。

今後、糖尿病医療に関わる医療従事者は血糖コントロールを行うだけではなく、糖尿病患者さんが社会の中で置かれている現状を認識し、患者に寄り添った立場からスティグマの解消に努めることも大切な役割となってきます。

我々もアドボカシーの重要性を認識し、合併症の発症・進行を予防して患者さんの寿命を確保すると同時に、患者さんが糖尿病によって生活の質を落としたり望む人生を諦めたりすることがないように日々の診療を行っていく所存です。

乙訓地域の基幹病院として、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。今後とも益々のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2020年4月より赴任しました松本しのぶと申します。専門は糖尿病内科ですが、関西医科大学心療内科学講座でも研修を行い、全人的医療を学んできました。患者さんを「知る」ことを大切にし、継続可能な治療を一緒に考えることを心がけています。今後とも宜しくお願い致します。

糖尿病内科 医長 松本しのぶ



2020年4月1日付にて当院に着任致しました、片山 智也と申します。専門の糖尿病・内分泌ほか内科全般の診療を通じて、病気の重症化を防ぐ早期発見・治療に微力ながら取り組んで参ります。さらなる医療水準向上に努めますので、地域の先生方に於かれましては何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

かたやま ともや
糖尿病内科 医長 片山 智也



社会福祉法人
恩賜財団 済生会京都府病院

SAISEIKAI KYOTO HOSPITAL

れんけいだより vol.06 2020 Aug. 8